

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	先端材料工学	
科目基礎情報							
科目番号	0038			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	海事システム学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	後期:2		
教科書/教材	学生のための始めて学ぶ基礎材料学（日刊工業新聞社）				参考：先進機械材料（倍風館）		
担当教員	伊藤 友仁						
到達目標							
1. 古くから使用されている従来の工業材料の基礎を理解し説明できる。 2. 従来材料の先端的利用法を含む各種製品への応用を理解し説明できる。 3. 先進技術を支える最先端の材料を理解し、その応用技術を説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	従来の工業材料の基本を理解し、使用状況が説明できる。			従来の工業材料の基本を理解し概要を説明できる。		従来の工業材料の基本を理解していない。	
評価項目2	従来材料の先端的利用法を含む各種製品への応用を理解し説明できる。			従来材料の先端的利用法の概略を説明できる。		従来材料の先端的利用法の概略を説明できない。	
評価項目3	先進技術を支える最先端の材料技術を理解し、その応用を説明できる。			先進技術を支える最先端の材料技術を理解し説明できる。		先進技術を支える最先端の材料技術を理解し説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	【平成27年 海事1年 春、平成28年 1年 春、生産 平成27年 2年 前期、平成28年 2年 前期開講】 従来の工業材料の基礎を学習し、その先端的利用法を含む各種製品への応用を学ぶ。 更に、先進技術を支える最先端の材料を理解し、その応用技術を説明できる。						
授業の進め方・方法	・授業方法は主に講義だが、適宜演習問題や課題などを課し提出を求める。期限は厳守すること。 ・高専本科で履修した物理・化学の知識を総合的に要するので、指示があった場合は予習しておくこと。また、授業後には内容を復習しておくこと。 ・材料技術に関し、英語で説明を要する課題を課すことがある。						
注意点	・復習を毎回行い、授業内容を記述して説明できるレベルまで理解しておく。 ・授業方法は主に講義だが、適宜演習問題や課題などを課し提出を求める。期限は厳守すること。 ・演習等の提出物は平常点に加算され、欠席した場合の考慮はしない。 ・予習復習と既習事項の練習は基本的に受講者の責任であるが、授業時間外でも質問を受付ける						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンスと材料基礎		授業の概要と身の回りの材料の物性を理解できる		
		2週	工業材料の分類と先端材料概論		工業材料の3分類を理解し説明できる		
		3週	先端材料と従来材料（1）		鉄材料の原料と製造方法理解できる		
		4週	先端材料と従来材料（2）		鉄系材料の先端的利用法を説明できる		
		5週	先端材料と従来材料（3）		鉄の基礎と応用（ねじ・磁石ほか）を説明できる		
		6週	先端材料と従来材料（4）		アルミニウム等の非鉄金属を理解し説明できる		
		7週	先端材料と従来材料（5）		高分子材料の基礎と応用を理解し説明できる		
		8週	中間試験		試験		
	4thQ	9週	電気・電子材料		電導の基礎と超伝導材料などの先端材料を理解できる		
		10週	原子力材料		核エネルギーやその材料を理解し説明できる		
		11週	複合材料（1）		複合材料の分類を理解でき、製造法を説明できる。		
		12週	複合材料（2）・航空宇宙用材料（1）		複合材料の航空、宇宙分野での使用を説明できる		
		13週	航空宇宙用材料（2）		超高温材料の基礎と応用を理解し説明できる		
		14週	その他の先端材料（3）		多種の先端的材料の概要を理解できる		
		15週	期末試験		期末試験		
		16週	試験の解答		試験の解説		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	0	10	10	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	60
専門的能力	0	20	0	0	10	0	30
分野横断的能力	0	0	0	10	0	0	10